

シンプルに思いを伝える

京都府 京都女子中学校 2年 河井 瑚子

「あれ？ あの人たち……。」

学校から駅までの帰り道、市バス、京都バス、そして私の学校のバスなどのバス停が間かくをあけて並んでいる。その中の学校のバスに乗ろうと外国人数人が待っていた。たぶん、市バスなどと間違えているのだろう。言ってあげないといけないと思ったが、

(もしかしたら、本当に学校のバスに乗ろうと思っているのかもしれない。まず日本語は通じないだろうし、私、英語話せないし……)。

見て見ぬふりをしてしまった。

そうして少し後ろめたさを感じて歩きながら、ふと数年前のことを思い出していた。私は母と母の外国人の友達と、有名な哲学の道を散歩していた。その日も観光客や散歩をする人でにぎわっていた。私たちもみんなと同じようにのんびり道を歩いていると、前方に犬を連れて人がフンをそのままにして立ち去ろうとしているのが見えた。

(持って帰ってよ……)

と思ったが、何も言えなかった。母も同じ思いだったようで、何も言わず飼い主を見ていた。すると、

「フン、モッテカエッテクダサイ。」

外国人の友達が飼い主に声をかけた。

「えっ。すごい……」

「フンダラ、ミンナイヤデショ。」

私はびっくりして目を見張った。彼女のかたことの日本語だったけど、堂々としていて格好よく輝いて見えた。私も母も、(もういいかな、面倒なことになったらいやだし) と思ってしまっていたのだ。しかし、彼女は自分の素直な気持ちをシンプルに行動にうつしていた。私は、余計なことばかり考えて、素直な自分の気持ちをなかつたことにしてしまっていた自分が情けなく思えたのだった。

外国人は思ったことをはっきりと言うことが多いのに対し、日本人はあまり何も言わない。それは「他人のことは口出ししなくてよい」という暗黙の了解が成り立ってしまっているからだろう。このような暗黙の了解は、日本人にとっては親切になるかもしれないが、外国人にとってはどうだろうか？ せつかくの日本人のもつ親切なところを外国人に伝えきれていないことが多いのではないだろうか？

私の住んでいる京都には、観光客の人と筆談をしたり、店のお手洗いや無料の休憩スペースを開放するなどのサービスを提供する「おもてなし隊」がある。このような取り組みによって日本人は親切だというイメージができていいるのだろう。しかし、このようなイメージが定着するためには、団体の取り組みだけではなく、私たち一人ひとりの心がけが大切だと思う。

あのとき、かたことの日本語でも堂々としていた彼女の姿を思い出して、もしまたこのような場面に出会ったら、自分の思いをシンプルに行動に移すようにしよう。